

春の中央アジア文化祭 2014

工芸と人とのものがたり
中央アジアをめぐる旅を西早稲田で

2014 4/18 (金)～20 (日)
10:30～19:00 (*最終日 17:00 終了)



中央アジアに魅せられた仲間が集い、
その文化、工芸、芸能を、来場者と分かち合う試みです。

会場は、昭和の一軒家。

稀少なコレクションアイテムから、暮らしで用いられてきた布や道具、
進行形でものづくりが進んでいるものまで、
現地度高く、展示紹介します（一部販売あり）。

春のいちにち、中央アジアへの旅にお出かけください。

■場所：もくれんげ

新宿区高田馬場 1-9-7

- ・副都心線・西早稲田駅徒歩 3 分
 - ・JR・東西線・高田馬場駅徒歩 13 分
- *住宅街の一軒家です。入場の際はご配慮お願いします。

■入場無料

■詳細は facebook ページ

「春の中央アジア文化祭 2014」(検索) をご参照ください。

主催：中央アジア文化祭（問合せ：090-9974-3397）



美しいアトラスの世界 東京農工大学ウズベキスタンプロジェクト

ウズベキスタンには、連綿と受け継がれている日本の紬と同じようにたて糸を先染めして織り上げた色鮮やかなアトラスという伝統的な絹織物があります。しかし、残念ながらソビエト連邦崩壊後、ウズベキスタンの絹産業は衰退し、高品質な生糸を作れなくなっています。そこで、東京農工大学は 2009 年からウズベキスタンで、世界一の品質を誇る日本の養蚕業を中心とした絹産業技術をウズベキスタンに技術移転するプロジェクトを行っています。本プロジェクトの中で、伝統的な絹織物アトラスの普及を目的とした商品開発も行っています。今回は、本プロジェクトの紹介および、色鮮やかなさまざまなアトラスの布とアトラス商品の展示販売を行います。ぜひ、美しいアトラスを手に取ってご覧ください。

■展示：「アトラスハンディクラフトコンテスト」
から生まれたアトラス小物、アトラス布地、等。
*一部を販売します。

■トーク：「養蚕交流とアトラス」川端良子
4/19(土) 13:00～14:00

草原の赤い絨毯 トルクメン族

tribe・榎龍昭 協力：村田清・田井みづ・橋真美

中央アジアの草原をテリトリーに移動生活を営んできたトルクメン族はドーム型の天幕が住居です。その内側は、様々な用途をもつ赤い絨毯で飾られています。床には完成度の高い絨毯（メインラグ）が敷かれ、壁には収納や荷物袋として使われる絨毯袋（ジュワルやトルバなど）が 2 枚組で掛けられます。絨毯には他支族との違いを表す家紋のような、格調高く個性的な文様が表されます。一目でトルクメンとわかる赤い色と 8 角形のギュルと呼ばれる、幾何学文様です。極端で激しい気候のなかでの遊牧生活は、想像以上に厳しく、その一瞬の春に咲き乱れる真っ赤なケシの花畠をそのまま取り込んだような赤い絨毯は、トルクメン族の美意識の結晶です。千里の道を駆ける駿馬を操り、東西の歴史上の大団から恐れられたトルクメン族は『ノーブル・サヴェージ』=「優雅なる野生人」と言えるかもしれません。

■展示：村田清、田井みづコレクションを中心に
道具として織られたトルクメン絨毯
(敷物、袋物、暖簾、テントベルト、等。
*一部を販売します。

■トーク：「優雅なる野生人」トライブ
4/18(金) 14:00～16:00



■ワークショップ「アトラスでつくるお月見うさぎ」
4/19(土) 11:00～、15:00～ (各回約 60 分)
■参加費：1500 円 (材料費込み)
予約不要 (当日先着順、1 回 6 名まで)
高橋ゆり

中央アジアのアトラスとアラス。一見派手に見えるので日本人には似合わないと思う方が大半でしょうか。でも雰囲気が銘仙と似ているので着物や和小物と相性が良いのです。帯や袋物などアトラスに合う和物を探っています。今回のワークショップでは簡単に出来て可愛い「お月見うさぎ」を創ります。縮緬のお顔とお耳に縞子とアトラスシルクを纏ううさぎさんです。多くの方にアトラスの良さを知ってもらいたいと思います。アトラスを使い手作りした名古屋帯や数寄屋袋も展示紹介します。

土から生まれる至高の美 中央アジアの装飾タイル オリエント・ライブラリー

日本ではあまり馴染みのない装飾タイル。「どうしてタイルに興味を持ったの？」とよく聞かれます。きっかけはシンプルに、旅行。中東などで建築物を彩るタイルがなぜか心に残り、しだいにタイルのある地域を旅先に選ぶようになり、タイルの本などを探して読むようになり、日本でのタイル情報の少なさが逆に渴望を生み、そうこうしているうちにタイルオタクになっていました。なかでも好きなのが、土の匂いと洗練の手技、大胆さと可愛らしさを併せ持つ、中央アジアのタイルなのです。そして、タイルから陶器へ、テキスタイルや工芸へ、芸能へ、中央アジアへの興味が広がっていました。好奇心を頼りにトコトコ歩いている途上人ですが、これからもたぶんずっと進行形。土ものを軸に、ユーラシアの時空を旅していくたいと思います。

(展示、トーク、ともに未定。行う場合は facebook ページにてご案内)



カザフ刺繡のお店・ケステ屋

廣田千恵子 (NPO 法人北方アジア文化交流センターしゃがぁ)

カザフ人は、カザフ国（カザフスタン）、新疆ウイグル自治区、アルタイ共和国、モンゴル国など中央アジア各地で居住しています。今回ケステ屋では、モンゴル国西部に居住するカザフ人女性が作った刺繡ものをお見せします。カザフ女性は、常に自分たちの家を美しく見せようと努め、家中の至る所に色鮮やかな装飾を施します。子どもを想い、家族を想い、丁寧に心を込めて作られた刺繡布や手織り紐は、カザフの「移動式家屋」ウイーの中でも用いてきました。今回の展示では、カザフ人が長きに渡り日常生活の中で用いてきた刺繡布や手織り紐を、たっぷりご覧頂きたいと思います。ぜひ実際に目で見て、手で触れて、彼等の想いを感じてください。現地のカザフ人女性が作った刺繡小物も同時に販売致します。どうぞお立寄りください。

■展示：刺繡布、刺繡小物、織物、手芸道具、
写真、ポストカード、カザフ民族音楽 CD、等。
*一部を販売します。

■トーク&スライド
「カザフ女性の手仕事一つくり、つたえる、母心ー」
廣田千恵子
4/20(日) 11:00～12:00



ものがたりの部屋

サラーム・サラーム (Salamx2)

イランの部屋では、イランの絵本を展示します。1960 年代より絵本が多く作られるようになったイラン。絵本の作り手たちは、革命や戦争など時代の荒波に揉まれながらも、豊かな感性と確かな技術を武器に、存分に絵本を作っていました。ハーフェズやサアディを生んだ「詩の国」ですから物語も多彩です。今回はなるべくランダムに古いものから新しいものまで色々並べる予定です。

初めての物語を探しにイランの部屋にふらりと遊びにいらしてください。

■展示：イランの絵本、切手、1950-80 年代の初日カバー (切手の発行初日の消印が押された封筒)、
古更紗を使ったカードホルダー、等。
*絵本の一部を除き販売します。

■イベント：「ペルシャ語の物語を楽しもう」
◆朗読と演奏 ◆愛甲恵子 (ペルシャ語絵本翻訳家)
ゲスト・蔡怜雄 (トンパク、ダフ、
ダイエレ奏者)
4/19(土) 17:30～18:30

◆参加費：500 円
要予約・申込みは info@salamx2.com まで。



■コンサート＆トーク「トゥバ共和国の伝統音楽とホーメイ」
4/20(日) 13:00～14:00
寺田亮平



ロシア連邦を構成する共和国のひとつであり、モンゴル国北西部に位置するトゥバ共和国。トゥバはタイガや湖がたくさんある非常に自然が美しい国であり、現在でも伝統的な遊牧生活を営まれています。そこに暮らすトゥバ人はカザフ・クルグズなどと同じテュルク系民族であり、中央アジア諸民族と多くの文化が共通しています。そしてトゥバの喉歌・ホーメイをはじめトゥバの音楽は世界的に有名です。トゥバと日本の往復生活を続け、2014 年には国際ホーメイシンボジウムにて名人芸賞を受賞したトゥバ音楽演奏家・寺田亮平がトゥバの伝統楽器、イギルやドシュブルールを用いて、トゥバの伝統的な歌と演奏をお聞かせいたします。また、あまり日本では知られることの無いトゥバの基本的な情報や旅の記録など、スライドを用いてお話しできればと思っています。

・イベント・交流タイムも随時予定

■4/18(金)

14:00～16:00 ●トーク「優雅なる野生人」—トライブ

■4/19(土)

11:00～(約 60 分間) ●ワークショップ「アトラスでつくるお月見うさぎ」1 回め—高橋ゆり

13:00～14:00 ●トーク「養蚕交流とアトラス」—川端良子

15:00～(約 60 分間) ●ワークショップ「アトラスでつくるお月見うさぎ」2 回め—高橋ゆり

17:30～18:30 ●朗読と演奏「ペルシャ語の物語を楽しもう」—愛甲恵子
ゲスト：蔡怜雄

■4/20(日)

11:00～12:00 ●トーク&スライド「カザフ女性の手仕事一つくり、つたえる、母心ー」
—廣田千恵子

13:00～14:00 ●コンサート＆トーク「トゥバ共和国の伝統音楽とホーメイ」—寺田亮平